

CASBEE-広島 (2010年ver.1)
S&Cプロジェクト(B工区)組立棟

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.3
Q1 室内環境			0.30					2.3
1 音環境		1.9	0.15		-			1.9
1.1 騒音		3.0	0.40		-			
1 暗騒音レベル		3.0	1.00		-			
1.2 遮音		1.4	0.40		-			
1 開口部遮音性能		1.0	0.60		-			
2 界壁遮音性能		2.0	0.40		-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-			
1.3 吸音		1.0	0.20		-			
2 温熱環境		2.1	0.35		-			2.1
2.1 室温制御		2.0	0.50		-			
1 室温設定		3.0	0.38		-			
3 外皮性能		2.0	0.25		-			
4 ゾーン別制御性		1.0	0.38		-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20		-			
2.3 空調方式		3.0	0.30		-			
3 光・視環境		2.2	0.25		-			2.2
3.1 屋光利用		1.8	0.43		-			
1 屋光率		1.0	0.60		-			
2 方位別開口			-		-			
3 屋光利用設備		3.0	0.40		-			
3.2 グレア対策			-		-			
2 屋光制御			-		-			
3.3 照度		2.0	0.21		-			
1 照度		2.0	1.00		-			
3.4 照明制御		3.0	0.36		-			
4 空気質環境		3.0	0.25		-			3.0
4.1 発生源対策		4.0	0.50		-			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を70%以上の面積に採用。天井裏F☆☆☆☆不使用。	4.0	1.00		-			
4.2 換気		2.6	0.30		-			
1 換気量		3.0	0.33		-			
2 自然換気性能		1.0	0.33		-			
3 取り入れ外気への配慮	事務室空気取入口は汚染源の無い北側外壁面に設置し、排気口とは6m以上離隔を確保。	4.0	0.33		-			
4.3 運用管理		1.0	0.20		-			
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50		-			
2 喫煙の制御		1.0	0.50		-			
Q2 サービス性能		-	0.30		-			2.6
1 機能性		1.6	0.40		-			1.6
1.1 機能性・使いやすさ		1.6	0.60		-			
1 広さ・収納性		1.0	0.33		-			
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33		-			
3 バリアフリー計画		3.0	0.33		-			
1.2 心理性・快適性		1.6	0.40		-			
1 広さ感・景観		1.0	0.33		-			
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33		-			
3 内装計画		1.0	0.33		-			
1.3 維持管理			-		-			
1 維持管理に配慮した設計			-		-			
2 維持管理用機能の確保			-		-			
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31		-			3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48		-			
1 耐震性		3.0	0.80		-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20		-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.33		-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23		-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23		-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水HIVP:B, 排水VP:BでEは不使用	5.0	0.15		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23		-			

2.4 信頼性			3.0	0.19		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.3	0.29		-	3.3
3.1 空間のゆとり			3.8	0.31		-	
1	階高のゆとり		3.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.048	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性			3.3	0.38		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性	工場内配管は構造部材を傷めずに直接支持。	4.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性	工場内ケーブルラックは構造部材を傷めずに直接支持。	3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性	工場内ケーブルラックは構造部材を傷めずに直接支持。	3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース	底上を室外機置場として利用可能。	4.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40		-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		敷地周辺での主な眺望点(メインアクセス)である北西コーナー部分の景観を考慮して緑地を設置。	3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40		-	4.0
1 建物の熱負荷抑制				-		-	-
2 自然エネルギー利用			3.5	0.29		-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	トップライトによる自然採光	4.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		ERR=71.7	5.0	0.43		-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.29		-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	2.7
1 水資源保護			3.4	0.15		-	3.4
1.1	節水	節水型器具を採用。	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.63		-	2.5
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.21		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み		3.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68		-	
1	消火剤	移動粉末消火、消火器の消火剤はABC粉末を使用。	4.0	0.33		-	
2	断熱材		2.0	0.33		-	
3	冷媒		3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.5
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率=73%	5.0	0.33		-	5.0
2 地域環境への配慮			2.4	0.33		-	2.4
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.6	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
3	交通負荷抑制	駐輪場150台確保/駐車場付置義務による協議を実施/車路部分に待機・荷降ろしスペース確保	4.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.33		-	
2	振動		3.0	0.33		-	
3	悪臭		3.0	0.33		-	
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	照明総合効率100lm/W以上を採用/照明士による設計/広告物照明なし	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	